

## ソーシャルワーカーとして大切にしたいこと(第11回ピア・スーパービジョン)

著者	河副 美春
雑誌名	聖学院大学総合研究所Newsletter
巻	Vol.23
号	No.1
ページ	23-24
URL	<a href="http://id.nii.ac.jp/1477/00002685/">http://id.nii.ac.jp/1477/00002685/</a>

<b>Title</b>	ソーシャルワーカーとして大切にしたいこと(第 11 回ピア・スーパービジョン)
<b>Author(s)</b>	河副, 美春
<b>Citation</b>	聖学院大学総合研究所 Newsletter, Vol.23-No.1, 2013.9 : 23-24
<b>URL</b>	<a href="http://serve.seigakuin-univ.ac.jp/rep/modules/xoonips/detail.php?item_id=4602">http://serve.seigakuin-univ.ac.jp/rep/modules/xoonips/detail.php?item_id=4602</a>
<b>Rights</b>	



聖学院学術情報発信システム : SERVE

SEigakuin Repository and academic archiVE

## ソーシャルワーカーとして大切にしたいこと 河副 美春

今回のピアスーパービジョンでは、現在の仕事内容、ソーシャルワーカーとして大切にしていることや困難なこと、これからの課題や福祉の仕事のいいところを発表することで、自らの振り返りをいいきっかけとなった。これからもピアという場を通して自らを振り返り、共有し合える機会を大切にしていきたいと思っている。

私は、聖学院大学を卒業後、2年半介護士として勤務した後、元々学んだ相談援助技術を活かした仕事に就きたいと考え、医療ソーシャルワーカー（以下、MSW）へと転職をし現在7年目のMSWとなった。

現在の職場の主な業務内容は、転院、退院への支援、経済問題調整、受診援助等であり、さまざまな立場や環境に置かれているクライアントにかかわることを主とした業務を行っている。

MSWとして日々大切にしていることは、クライアントとのかかわりである。クライアントの今を大切にし、その日その時のかかわりが大切であると考えている。病者としてではなく、生活者としてクライアントとのかかわるとたくさん見えてくることがある。自らのかかわりを見直すためにもグループスーパービジョンなどへの参加を通して他のMSWの考えやかかわりに触れたり、自分自身のかかわりを見つめ直すことで、支援を振り返る機会を大切にしている。また、家族等の意見を優先させられがちであるが、クライアントが本当はどうしていきたいのかをまず受け止めることを第一としながら支援をしている。

仕事上で困難なことは、MSWが何をしている人なのか理解されにくいことである。結果が重視され、クライアントとの関わりは評価されにくいこと。福祉従事者であるがゆえ、クライアントと十分にかけられなかったりすると反省がつきないこ



とが負担になってしまうことがある。

これからの課題としては、①どのような状況でもクライアントに寄り添えるMSWであり、クライアントとの関わりに深みを持たせること②クライアントをアセスメントする能力を身につけること③MSWの専門性を主張し理解してもらう必要がある。そのためには、日々のかかわりから学び、振り返りそれを実践しながら高めていくことが必要である。福祉の仕事のいいところは、一生同じかかわりはなく、いつも新鮮であることである。かかわり次第でクライアントと信頼関係を築き、心を通い合わせることができ、クライアントと共に右往左往しながら一緒に歩むことができること、クライアントの語りの中から今までの生き方や考え方、思い触れることができること等いいところがたくさんある。困難なこともたくさんあるが、一つ一つの出会いやかかわりによって自分自身も学ばされることが多い職業であると思う。今回のピアスーパービジョンでもメンバーと多くのことを共有することができ、私にとって明日からまた頑張ろうと思えるいい機会となった。

(かわぞえ・みはる 三井記念病院にソーシャルワーカーとして勤務、社会福祉士、介護支援専門員、2003年度聖学院大学人間福祉学科卒業)